

番外編

育て方のおハナシ

紫陽花を実際に育てるには
どのようにしたら良いか、
少しだけ解説します！

紫陽花の学名は『Hydrangea』

これはギリシャ語で「小さな水瓶 水壺」を表す言葉です。
その意味の通り、紫陽花は水をとっても好む植物です。
そのため水やりは欠かせません！
朝と夕方の1日2回の水やりが基本になります◎

実は日に弱いのです。

紫陽花は風通しが良い場所を好み、直射日光を嫌います。
なぜなら直射日光は葉焼けや生育不良に繋がってしまうからです。
家庭で育てる場合は、西日と日中の日差しを避けるため、
木陰や塀の陰など風通しの良いところで
育ててあげましょう！

最後に魔法のような話を1つ

中ページ「色のおハナシ」で少し触れていますが、紫陽花の花の色は
コントロールすることができるのです！

青系の花にしたい場合は酸性の肥料を、
赤系の花にしたい場合はアルカリ性の肥料を土に混ぜて育てると
色がだんだん変化していきます。

(※最近の品種では反応しないものもあります)

気になった方は紫陽花を自分好みの色に育ててみてはいかがでしょうか？

令和3年あじさい祭り

知ろう
俣野別邸庭園のあじさい

©2021 Naru.O / Kanon.N

知るともっと楽しめる 俣野別邸庭園の

アジサイ

紫陽花のおハナし

日本の名花のひとつで、
梅雨の季節に彩りをもたらししてくれるアジサイ。
アジサイには多種多様な園芸品種があり、
私たちを楽しませてくれています。

ガクアジサイ '隅田の花火'



俣野別邸庭園にある、
ガクアジサイの仲間の隅田の花火というアジサイは、
八重咲きで花柄が長いという特徴を持っています。
その姿は、打ち上げ花火が弾け散った瞬間のように見えます。
花の色は、基本は白ですが、
白から次第にほのかに青色が入ることが多いです。

かへい
※花柄…花を支えるための茎の部分。



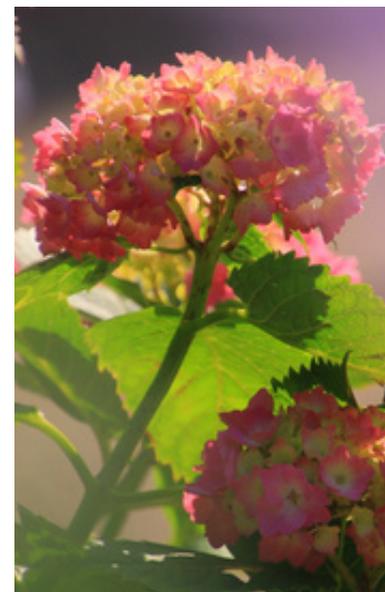
なぜ花の色が
変化するのでしょうか？
さあ、続きを読んで
アジサイのことを
知ろう！

色のおハナし

色とりどりの花を咲かせるアジサイ。
なぜこんなにも色があるのでしょうか。
近くで咲いているのに、
花によって色が違う。

一体何が関係しているのでしょうか？

アジサイは、育った土によって
色が変わるのです！
他には、土の性質の違いや、
お花に含まれる色素が関係しています。



では、なぜ花の色は
変わっていくのでしょうか？

開花から日が経つにつれて、
花の色が変化する理由は、
花の老化によるものだそうです。



皆さんは何色のアジサイが好きですか？

時間の経過とともに様々な表情を見せるアジサイに
うっとり、魅了される季節がやってきました。
俣野別邸庭園のアジサイを是非、楽しんでくださいね。